

- 調査対象 東京商工会議所会員企業 1,477社
- 調査方法 メール・FAX・インターネットによる回収
- 有効回答数 582件 (回答率: 39.4%)
- 調査時期 2020年7月27日～8月3日

従業員の健康管理に不安を感じている企業 85.4%

新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの企業が事業継続に何らかの影響を受けている。事業活動を支える従業員のパフォーマンスについてもしかりである。

心身ともに健康であることが前提となるが、コロナ禍における企業の従業員に対する健康管理の実態はどうなっているのか。今回はそこにスポットを当ててみたい。

生活」17.5%の順となった。

感染症対策として多くの企業が採用した就業環境や働き方を見直す動きは、新しい働き方として定着する兆しがある一方で、従業員のメンタル面について危惧している企業が多くなっている。

メンタルヘルス対策については、コロナ以前から従業員の心と

身体の健康づくりを実践するうえで重要な取組みの1つとされてきた。ニューノーマル（新常態）といわれる新しい時代に入ってもその重要性は変わらないが、環境の変化に応じた対策の必要性が求められるのは言うまでもない。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ▲

従業員の健康管理

かなり不安を感じる… **28.2%**
やや不安を感じる… **57.2%**

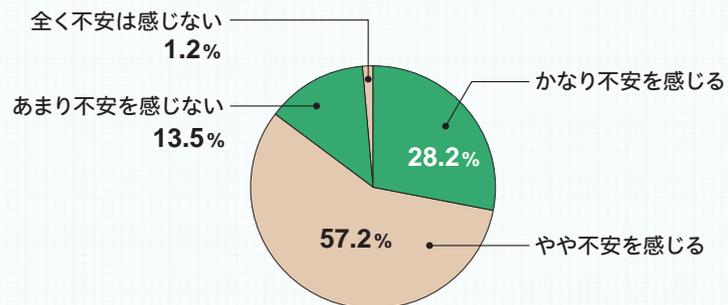
従業員の健康管理に対する不安の有無について尋ねたところ、「かなり不安を感じる」と回答した企業が28.2%、「やや不安を感じる」が57.2%となった。

「あまり不安を感じない」「全く不安は感じない」と回答した企業は双方合わせても14.7%にとどまり、多くの企業が不安を抱えていることが明らかになった。

「メンタルヘルス」に対する不安が6割強

不安の内容について具体的にあげてもらったところ、「メンタルヘルス」が64.7%でもっとも多く、以下、「健康診断の実施」33.2%、「運動不足」32.6%、「食

従業員の健康管理に対する不安の有無 (N=582)



具体的な不安の内容 (複数回答) (N=485)

